

FSRJ第9回討論会を終えて

加茂 徹（産業技術総合研究所）



FSRJ 研究討論会の前日（2006年8月27日）、山梨県環境科学研究所で国際セミナー2006「プラスチック・リサイクルの現状と未来」が開催され、(1)「国内における廃棄プラスチックの現状、およびポリ乳酸のリサイクル技術と将来」西田治男氏（近畿大学）、(2)「欧州における廃棄プラスチック・リサイクルの現状と将来」Aafko Schanssema 氏（欧州プラスチック協会）、(3)「ドイツにおける化学繊維リサイクルの現状と未来」Renate Lutzkendorf 氏（TITK

研究所）の3件の講演が行われ、その後に奥脇昭嗣氏（東北大学名誉教授）、鈴木嘉彦氏（山梨大学）、吉岡敏明氏（東北大学）、窪田真弓氏（NPO 法人スペースふう）、関口通哉（山梨県）の5氏によるパネルディスカッション「容器包装リサイクルの課題と今後の方策」が開催されました。

リサイクル技術を開発する大学、普及させる自治体、実践する企業やNPO等の更なる努力と相互の協力が必要であることが改めて認識させられました。



第9回のプラスチック化学リサイクル研究会は、2006年8月28日～29日の2日間、山梨県環境科学研究所で開催されました。初めに、功労賞：(社)プラスチック処理促進協会、技術功績賞：(株)ジャパンエナジー、研究功績賞：佐古猛氏（静岡大学）、研究進歩賞：加茂徹氏（産業技術総合研究所）を受賞された方々の受賞講演があり、その後、口頭発表23件、ポスター発表30件の一般講演が行われました。今



回の研究討論会では高分子学会からの参加も多く、単に廃プラスチックを処理するだけでなく、循環利用し易いプラスチックを設計・製造するための研究も数多く発表されました。特にポリ乳酸を用いたリサイクル性の高いポリマーについては、最近、パソコンや携帯電話等の商品も実用化されており、多くの注目を集めました。今後は、従来から使用されているプラスチックと分別し、確実に回収する社会システム作りが重要な課題と考えられます。



現在、容器包装リサイクル法で回収された廃プラスチックについては、大型の施設で主に処理されていますが、産業廃棄物として排出される廃プラスチックは 2~10 トン/日程度の場合が多く、これらの小規模な排出元での利用できる技術開発がいくつか報告されました。また、各種の溶媒を利用して、廃プラスチック中に含まれる難燃剤やガラス繊維を回収する研究も報告されました。

ポスター発表では、塩素系廃棄物の熱分解等や、ポリ乳酸等を利用したケミカルリサイクルに関する新しい研究が報告され、今後の 1 つの方向を示すものとして注目されました。なお、ポスター賞としては、下記の 5 人が選ばれ表彰されました。